



# 水道は営業赤字になるも黒字を維持。 下水道は営業赤字15億円。

企業会計は、利用料金などの収益で経営を行う「独立採算性」で運営している会計のことを言います。水道事業に加え、令和2年度から下水道事業も企業会計になりました。

\*数値は四捨五入しているため、合計や差し引きが合わないところがあります。

## 水道事業



### 【主な整備内容】

施設、水道管路の更新や耐震化

### 【収益面】

新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食業や宿泊業などの業務用途の使用水量が大きく落ち込み、水道料金収入が大幅に減少しました。**前年度に比べ、約6千万円の減収**になりました。

### 【費用面】

維持管理費や支払利息が減少した一方、7月豪雨災害による特別損失が発生しました。

### 【事業の状況】\*作った水のうち料金収入が得られた量

20年前から有収水量(\*)が減少傾向にあります。近年の節水機器の普及や人口減少によりその傾向は強まっています。

当期は、水道料金収入だけで水を作る費用を賄えない

**「原価割れ」**に陥っています。

### 【今後の見通し】

平成9年度の料金改定以降、維持管理費の削減や計画的な企業債残高の縮減などを進め、営業利益の確保に努めてきましたが、2年連続で営業損失が発生し、厳しい経営環境が続いています。

今後も給水人口の減少による水使用量の減少や、新型コロナの影響で先行き不透明な状況ですが、水道水の安定供給のため、**水道施設の老朽化対策や耐震化対策、災害対策に取り組んでいく必要**があります。

項目	決算額(万円)
営業収益	16億493
営業費用	16億6,193
営業損益	- 5,700
営業外収益	3億4,618
営業外費用	1億1,190
経常損益	1億7,728
特別損益	- 2,733
当期純利益(収支の差額)	1億4,995

問合せ 上水道課 ☎ 35-3149

## 下水道事業



### 【主な整備内容】

老朽化した下水道処理設備の更新や耐震化

### 【収益面】

企業会計初年度は、下水道の使用水量が前年度に比べ4.5%減少したため、営業収益が約15億円となりました。

### 【費用面】

下水道管や処理施設の維持管理費用や支払利息のほか、7月豪雨災害や企業会計に変更したことによる特別損失がありました。

### 【事業の状況】

営業活動による収支(営業損益)は、**15億4,279万円の赤字**になりました。

当期純損益は0円となりましたが、これは**一般会計からの繰入金**(営業外収益のうち約12億5千万円)で補填しているためです。

### 【今後の見通し】

人口減少などにより使用料収入の減少が見込まれ、経営状況はますます厳しくなると予想されます。

今後、施設の統廃合を始めとする徹底した経営の効率化を進めていきますが、それでも解消できないほどの継続的な資金不足が見込まれています。

赤字決算を回避するためには、**下水道使用料の改定による収益の改善など、早期の経営改善が必要**です。

項目	決算額(万円)
営業収益	14億7,518
営業費用	30億1,797
営業損益	- 15億4,279
営業外収益	19億7,415
営業外費用	3億5,188
経常損益	7,948
特別損益	- 7,948
当期純利益(収支の差額)	0

問合せ 下水道課 ☎ 35-3150